

756

村

256

228

釋
村

鄙
是
東
國
方

44. 20
内交

よ
の
僧
の
我
未
都
を

入
の
作
程
よ
此
書
思
の
ま
て
作

や
の
ろ
ま
ち
の
や
孫
生
あ
ら
ま
の
春
の

空
の
く
が
ぎ
も
長
閑
よ
あ
ら
る
日
也

震^{日本}も^ハ音^ハ羽^ハ山^ハ響^ハ乃^ハ響^ハ音^ハも^ハお

成^ハ清^ハ水^ハ茶^ハよ^ハま^ハり^ハま^ハり^ハく^ハお^ハる

程^ハよ^ハ見^ハの^ハ都^ハ清^ハ水^ハ寺^ハと^ハう^ハや^ハま^ハき^ハん^ハ

見^ハの^ハ成^ハ櫻^ハ乃^ハ威^ハと^ハみ^ハて^ハん^ハ人^ハと^ハあ^ハて^ハ委^ハ

尋^ハり^ハも^ハ思^ハの^ハハ^ハの^ハの^ハら^ハら^ハま^ハる^ハ手^ハ

向^ハと^ハ成^ハよ^ハま^ハる^ハ地^ハ主^ハ権^ハ現^ハの^ハた^ハば^ハら^ハら^ハ

入^ハた^ハの^ハ名^ハ可^ハお^ハほ^ハと^ハり^ハ其^ハた^ハ悲^ハ

の^ハき^ハり^ハ色^ハし^ハら^ハぬ^ハ洗^ハ寺^ハ乃^ハ地^ハ主^ハの^ハ
櫻^ハよ^ハま^ハり^ハあ^ハら^ハは^ハま^ハり^ハも^ハや^ハた^ハ悉^ハた^ハ
悲^ハ乃^ハま^ハの^ハ花^ハ十^ハ葉^ハの^ハ雨^ハの^ハり^ハら^ハる^ハ三^ハ
十^ハ三^ハ乃^ハ乃^ハあ^ハま^ハり^ハ月^ハ五^ハ深^ハの^ハ水^ハ乃^ハ歌^ハ
生^ハる^ハ早^ハ振^ハ林^ハの^ハは^ハ庭^ハ乃^ハ分^ハま^ハ
あ^ハれ^ハも^ハ白^ハち^ハる^ハ金^ハ乃^ハ雲^ハも^ハ露^ハえ^ハら^ハづ^ハ
ま^ハり^ハく^ハ行^ハま^ハ櫻^ハ乃^ハ権^ハぞ^ハと^ハ見^ハ渡^ハ

昔大和國小嶋寺と云可しよまきま
也りお妙門の牙乃觀世音をたの
まんと誓ひ取しよ有財てつじりり上
より入金受りきりしよと尋登り
てたれ一人の老翁ありは翁語
くわく。神き見行教者としり
世一人乃檀那をまきち。大依藍を建

きり入りて東はつてらびまぬ
されば行教者きりつを見教多薩
壇乃は再認ま檀那坤まくと有
し見坂乃上の田村丸 今も其
からよ遠きたる清水乃く深き橋
まねのよみ手のほ手ねりく橋
乃ちり普くて國土萬民をり

トよ大樂乃歌より舞まじりて也樂
世象よりしらぬ世樂の示現く物ら
馬の觀音音ありて濃勝なり
早白上人のまのありてありて
ふみへ渡りたるは皆から可きそい
教へ出たは皆の音ありて人音尋人
舞へり

なしてさびしき人音にありて舞
しりて中品清園寺今舞舞
みきへり

先く是社は傍るゝぞある上る上る
是くも眼をきくもはるゝもあつたる
一時の愛惜をへるゝ半半をいふもや
藝者一割價の金花は清書月月
かげも千金もへるゝやわか
此時もや 長く西白の地をへるゝ華の
氣もやあ梅のこはまもきく月のを

心ある所をきくもあつたる都
乃きのるもきくもあつたる都
陰をとりもて長閑ある音羽の
自急りたりなりへるゝも面白や有
強やあ地を握現の花のあもるゝあり
頼め標をへるゝるゝもあつたる

よあらん限り乃ち誓願清らむを
清氷乃ち清らむもさひや青柳の宮も
枯る木ありた花様木のようほひ
づく時暮れあて長閑ま敷き有
月乃ち天を流るるもあまのうらま
かき面白くもかきかきかき
みるからよは人あらぬ粧乃其名いふ
成

人山候へ出らば其のまじり名を白
乃然と惜まば此寺なる方をば候
まよ 疑ふもあまのままら
ま程うまを乃ちたづきもあまの中
おほつらあく其思ひ給ひ我れ方を
入よやとて地を様現のほ前より
かきみえらるるもせきとて坂の上の

田村堂入行きむ月のおむらと押あ
きてうちまゝ入き給るまきの内陣よ入を
給ひまきの^ミあまもから教や採入陰
ま居らぐく。昔もたへある法乃場
^ミ速もぬ月のおきたよ。此法經と讀^ミ解
きま^ミく^ミあ^ミら有難乃所經やお
清次寺の能津浪まこ^ミ行乃流を

ほぐ。他まの縁有核人よ^ミ察をかた
お^ミきし乃^ミ儀^ミ補^ミ具^ミぞ^ミ則^ミ大^ミ慈^ミ大^ミ悲^ミ乃^ミ
観音權護乃^ミ結^ミ縁^ミたる^ミか^ミま^ミや
お^ミ花^ミの^ミき^ミり^ミよ^ミか^ミむ^ミら^ミく^ミ男^ミ縁^ミの^ミ人^ミ
乃^ミらん^ミの^ミ給^ミよ^ミあ^ミる^ミ人^ミま^ミま^ミあ^ミま^ミぞ
今^ミら^ミ行^ミき^ミつ^ミま^ミ入^ミま^ミ仁^ミ五^ミ十^ミ一^ミ代^ミ平^ミ城^ミ
天皇乃^ミ志^ミ守^ミよ^ミ有^ミり^ミ坂^ミの上^ミ乃^ミ田^ミ村^ミ丸^ミ

東夷とちひらき悪魔と志のあ天下
 泰平の忠勤なりしを別當寺の弘力也
 上寺地
 烈るよ君乃宣旨よの勢別もぐの乃
 あくまを志のめが都安令よ有る一
 一の信よわく軍兵と調(既)は慈く
 射弟のまりて此觀音のふ前よまの
 祈念をくし志のまよのうごら乃

瑞雲あらたあれ歡喜微笑の頼を
 うむむく氣まは後よ打るなりノ普天
 乃下直まののりく玉地よあらるわ
 頼てあしけ南の庄はあてあまら
 山とこゆきがうら波乃粟津乃本林や
 如きろの名山寺とくせぐの具も
 清妙の佛と頼ああひよの路を

勢田の長橋よりあり物平足なるや
いそぎらん 既よ伊勢路乃山ちうく
ら馬乃道も先うきんとつきさき
ある梅うさの花もあやもさめあて
だき兒のきあらねの去も女を秋大
君乃神國知よの観音のはぢ
ゆかしら神カもあはねのまひら

もまのこころもあはれなる鹿
乃みろのききもあはれなる佳句
あへー 上巻 行のむと動うの鬼
神乃きまよの地は満て萬木を
いせの動揺もり 期 けふの鬼行もたは
まき昔もきたあつちのいり

一 鬼もはは入一 鬼もはは入

天^{カミ}討^{ウチ}よ^{カミ}ち^{カミ}ら^{カミ}し^{カミ}て^{カミ}松^{マツ}の^ノ海^{ウミ}に^ニあ^アら^ラせ^セら^ラせ^セり
そ^ソう^ウま^マし^シも^モち^チか^カら^ラぬ^ヌ鉄^{テツ}鹿^カ山^{サン}
掘^{ウダ}殺^{コロ}す^スれ^レ伊^イ勢^セ乃^ノ海^{ウミ}に^ニあ^アら^ラせ^セら^ラせ^セり
村^{ムラ}立^タた^タす^スの^ノ鬼^{オニ}神^{カミ}の^ノ黒^{クロ}雲^{クモ}鉄^{テツ}火^ヒを^ヲ
う^ウら^ラし^シの^ノ教^{キョウ}子^シ孫^ソ乃^ノ身^ミを^ヲ賣^ウり^テ山^{ヤマ}
の^ノ殿^{テン}に^ニあ^アら^ラせ^セら^ラせ^セり
み^ミよ^ヨし^シの^ノ軍^{イクサ}兵^{ヘイ}の^ノ方^{カタ}乃^ノ軍^{イクサ}兵^{ヘイ}の^ノ

旗^{ノボリ}乃^ノ上^ノ手^ノ観^{カン}音^{オン}乃^ノ光^{ヒカリ}を^ヲ教^{キョウ}つ^ツく
屋^ヤを^ヲ行^{ユク}く^ク千^チ七^{シチ}手^テ毎^マに^ニ悲^{カナシ}
乃^ノ智^チ恵^ヱ乃^ノ矢^ヤを^ヲあ^アら^ラせ^セら^ラせ^セり
あ^アま^マの^ノ千^チの^ノ也^ヤ乃^ノ雨^{アメ}あ^アら^ラせ^セら^ラせ^セり
鬼^{オニ}神^{カミ}乃^ノ乱^{ラン}れ^レ乃^ノ落^{ラク}れ^レ乃^ノか
く^ク乃^ノ矢^ヤ乃^ノ鬼^{オニ}神^{カミ}乃^ノか
乃^ノ有^ア乃^ノ城^{シロ}乃^ノ

256
228

複製不許



明治卅二年六月廿五日從
同卅四年一月廿八日送 出版御屆濟
同四十三年三月廿五日再版
同四十四年一月拾日別製本御屆

訂正者

觀世清

(電話番町)



發行兼
印刷者

京都市上京區二条通美屋町東九角

槍

常之

(特電話二五)
(報警對金大段三)



呪詛諸毒藥入念成觀音乃ちらるる
あをせりてまのりて還著於人則
還黙於人乃敵を亡びたり
是觀音の力あり

